

全市シンポジウム 「希望のシナリオ」～これからの地域づくりを考える～

< 報告書 >

●日時：平成 30 年 12 月 9 日（日） | 第 1 部 13:30～16:50 | 第 2 部 17:00～18:15

●場所：エポックなかはら大会議室（7階）

●プログラム（第 1 部）：

- (1) 開会あいさつ（5 分）
- (2) ワークショップの目的と進め方（10 分）
- (3) テーブル自己紹介（テーブルは区ごとに分かれて）（5 分）
- (4) これまでの取組の振り返り（25 分）
- (5) 市長スピーチ「なぜ、いまコミュニティなのか？」（15 分）
- (6) 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」（素案）の説明（35 分）
～休憩（20 分）～
- (7) 区ごとの意見交換（テーブルごとに実施）（20 分）
- (8) 全体意見交換（60 分）
- (9) 閉会あいさつ（5 分）



「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」(素案) に関するシンポジウム参加者からのご意見・ご質問のまとめ

概要

全市シンポジウム「『希望のシナリオ』～これからの地域づくりを考える～」は、2018年8月～9月に市内7区で開催した市民検討会議ワークショップの集大成として開催。各区のワークショップの内容を振り返るとともに、いまコミュニティを考えることの重要性や、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方(素案)」(※以下「考え方」)について説明を行った。

参加者には、「考え方」等に対する意見、質問や感想を「**良いと思ったこと**」「**気になったこと・改善点**」「**質問**」「**その他感想**」の4種類に色分けしたポストイットに記入いただき、約300枚のポストイットをファシリテーターが章やテーマごとに整理し会場全体で共有した。また、もっとも意見が多く寄せられた第4章については、「新たなしくみ」の構築に向けた今後の取組ごとに整理した。

以下、各章・テーマごとに集められた意見等の概要を示す。



自己紹介シート

文字色の凡例 | **良いと思ったこと** | **気になったこと・改善点** | **質問**

第1～3章 | 目的と背景、現状と課題、基本理念と今後の方向性

第1～3章では、「考え方」の基本理念や今後の方向性等に関する意見が主に確認された。**全体的に良い**という意見や、**市が本気でコミュニティについて考えている**姿勢に感謝する等、「考え方」への共感や前向きな意見が共有された。特に、**小さな単位で考える**ということ、ないものねだりではなく**あるものをさがす**という姿勢が良い点として挙げられ、具体的には**空き家の活用**への期待が寄せられた。

また、「考え方」が目指す「市民創発」や「寛容と互助」については、**市民が主役**になり、**多様な意見**が取り入れられることや、**市民のやりたいことが後押しされる**ことに大きな期待が寄せられた。

一方で、**市民創発の具体的なイメージが湧かない**という意見や、**創発と寛容の区別や範囲**について質問も挙がった。

他には、「考え方」が**全体的に難しく概念的**なため**施策の柱が見えない**ことや、**情報発信**や広めるための**具体的な活動および体制**が分からないなどの懸念も確認された。また、**地域包括ケアシステムとのつながり**をはじめ、**これまでの取り組みとの関係、県レベルの施策の整合性は？現状の否定から入るのか？市への意見含め等**が取り入れられていないことなどについて問う意見があった。

第4章 | (仮称) まちのひろば

「**まちのひろば**」の**考え方**(行政の後押しを受けながら**市民が主導**となること等)に**共感し、期待**する声や、**ネーミングが良い**という意見が多く共有された。また、**サードプレイス**のような**地域における**

居場所づくりが求められていることが確認された。期待される機能としては、地域の資源を活用した課題解決や、気軽に学べること、多世代・同世代が集えること、地域の担い手づくりが実現できること等が挙げられた。

気になった点に関しては、既存のもの（施設や場所、組織や団体、人）を活用することが多くの関心を集めた。既存の空き家、公園、マンションの公開空地、公共施設などを「まちのひろば」として活用するためには、制度やルールづくり又はその見直しが必要であることや、現存する組織や人の魅力を発信しながら「まちのひろば」をつくっていくことの重要性が指摘された。一方で、「まちのひろば」の費用や財源をどのように確保するかなど、具体的な運営方法に関する疑問や支援の必要性が述べられた。

「まちのひろば」がどれくらいの地域単位で設置されるかが質問され、その単位がまちづくりの活動範囲や30～40代が認識する“地域”と合わない可能性があることが懸念された。

市への質問では、「まちのひろば」はどのような人に進めてもらい、その人材をどのように発掘しつなげていくかが挙げられた。また、今後の公共施設の管理や更新において「まちのひろば」がどのように位置付けられ、優先順位付けと合意形成がどのように行われるかが問われた。

第4章 | (仮称) ソーシャルデザインセンター

「ソーシャルデザインセンター」の創出や「考え方」で示された将来像の実現に期待し、トライ＆エラーで取り組みながら、まちで様々な化学変化を起こそうという前向きな意見が多く寄せられた。また、7区ごとに独自性を持つことへの共感も確認できた。

「ソーシャルデザインセンター」に期待する機能や役割として、気軽に相談できる場であること、中間支援やコーディネート機能や新たな広報システムの構築に期待するといった意見が挙がった。「ソーシャルデザインセンター」をさらに充実させるために、地域包括支援センターとの連携等の要望があった。

名称に関しては、「プラットフォーム」や「創発」等のキーワードを取り入れ、再考を希望する声があった。また既存の団体、活動や取組との関連を気にする意見が多数確認でき、具体的にはまちづくり協議会、社会福祉協議会や地域包括支援センターによる取組や、「麻生市民交流館やまゆり」や「かわさき市民活動センター」等の既存の場所との分けや関わりが気になった点として挙げられた。

「まちのひろば」と同様に、「ソーシャルデザインセンター」の運営に関わる財源や実施主体について問う意見が多かった。活動団体等へのこれまでの資金的支援やしゅみでは、運営を担うことは厳しいといった意見も確認できた。また、コーディネートやプロデュース機能の実現に向けて、人材の育成や確保が重要であるといった指摘とともに、それがどのように実施されるかについて関心が高かった。

その他には、「ソーシャルデザインセンター」の規模や数のイメージ、各区で創出していく上での検証方法や、「まちのひろば」との関連等に関する質問が挙げられた。

第4章 | 区民会議、まちづくり推進組織、区民活動支援コーナー等・市民提案型事業等

新しい時代に合わせて、既存組織等を変化させようという姿勢や心意気に賛同する意見が確認できた。新しい組織づくりに希望を持ち、若い世代の参加に期待する声も挙がった。変化する上で縦割りの必要機能を残しながら、ネットワーク型の機能の拡充に期待する意見や、今後の話し合いの進め方やまちづ

くり協議会が**廃止検討となった要因**について知りたいという質問が挙がった。また、**地域の課題解決への市民参加**が今後も重要であることから、**地域づくりを担う人材育成の工夫**が必要という指摘があった。

一方で、区民会議制度の廃止を懸念する意見も共有された。区民会議やまちづくり協議会による**市民と行政の協働による課題解決**と、「考え方」で示されている小さなコミュニティづくりとでは**役割が違う**のでは、といった指摘があった。また、**市民参画を進める機能**やものごとを**決定する組織**として区民会議のような形があってほしい、**テーマを変更**してみても、といった考えも伺えた。なお、廃止になる際には、これまで関わってきた人々が“切り捨てられた”と感じてしまわないように、**区民会議やまちづくり協議会が中間支援の役割を担うと良い**といった提案があった。

第4章 | 町内会・自治会、マンションコミュニティ等の住民自治組織

町内会・自治会の活動が後押しされることや**町内会・自治会とマンション管理組合とのつながりが促進されること**を期待するという意見が目立った。また、既存の町内会・自治会の継続や活性化が課題であるという声もあり、これからの**地域組織の見直しに期待**するという意見も挙がった。一方で、**行政と自治会の関係**に関しては見直しではなく**新しいパートナーシップのリメイク**ではないか、と問いかける意見もあった。

一方で、改善を期待する点としては、マンション住民と町内会との関係づくりや自治会への加入促進など、**既存の地域組織を支えるしくみが必要**という意見が印象的だった。また、**行政からの町内会・自治会への動員を減らす**など、**負担を削減**するという観点からも改善が期待された。

第5～6章 | 行政のあり方、これからの検討課題等、今後の進め方、その他

行政スタイルや組織のあり方に関しては、**庁内における横断的な連携**や今後の変化に対して期待が高かった。また、**行政職員の意識改革や人材育成**に関しても**期待**が寄せられたとともに、**職員への「考え方」の周知**や**現場を知ることの大切さ**への指摘や、**やる気の引き出し方**や**区と市の役割分担**に関する質問が出された。

また、行政の役割として、**市民協働**を重要視する意見が多かった。**これまでの市民活動の把握、今後の担い手の発掘**や**参加しやすいしくみづくり**や、**情報発信の改善**について意見が寄せられた。

これからの検討課題については、**空き家利用を進めること**や、**地域データの活用**について要望が示された。今後の進め方については、**試行錯誤しながらスピード感を大切に**することに共感する意見が確認できた。また、総花的ではなく、**具体的な地域でモデルの取組を進めて**みては等という提案も出された。

その他の意見や質問では、「考え方」の中で**小学校との関わり**や**防災に関する視点が少ないこと**の指摘や、**多文化・外国人との共生**をどのように進めていくか等の質問が出された。また、柔軟に**企業を活用**すること、**区役所等の公共施設の移転を慎重に**進めることや、**高齢者向けの施設やサービスの充実**等について要望が共有された。

ご意見・ご質問の詳細情報

凡例 ●くくりの言葉 | ◎良いと思ったこと | ▲気になったこと・改善点 | ◆質問 | ・その他感想

第1～3章 | 目的と背景、現状と課題、基本理念と今後の方向性



●全体的に良い

- ◎素案の全体的な方向性としては良い
- ◎全体的な方向性は素晴らしい！ぜひ区毎にモデルがスタートすることを期待！

●「希望のシナリオ」に同感

- ◎方向性と主要パーツのコンセプトは同感でき、嬉しく思います
 - ・実現するための課題は多いですが希望のシナリオを住民に示すのはとても良いことだと思います
- ▲立地に優れた川崎はシビックプライドの醸成が起こりづらいエリアだと思います。愛着の持てるハード・ソフト両面を整えてほしいです

●川崎市が本気で考えてくれる姿勢に感謝

- ◎川崎市の本気で市民活動を認め、生かしてゆく考えの表明だと理解しました
 - 市民一人ひとりが理解・共感を広げていけるか？
- ◎都民生活 40 年以上→川崎市役所区役所の窓口の広さに感謝です
- ◎役所の縦割りをやめようとしている姿勢、スモールスタートと見直し分析を入れるところ

●期待が持てた

◎実現したらとっても「良き社会」になるかもしれないという期待が持てました

- ・自立した個人が主体的に関わり、支え合う地域における「新たな支え合い」で共助の領域を拡大強化し、安心して次世代につなげていきたい

●小さな単位で考えていくことが良い

◎ [3章] 小さなエリアで大きなつながりができることを期待と共に実施していきたい

◎ [2章] 区域レベルで考えていくのは良いと思います。7区それぞれの良さや課題があるので、対応したものを進めてほしい

◎小さい単位、つぶやきからでも始められる地域づくりが可能なことかな？

◎ [3章] 地域を小学校区など小さな単位でとらえること、Community でなく Neighborhood という考え方！

●ないものねだりではない→あるものさがし

◎ [3章-2] ないものねだりでないあるものさがし

◆ [3章] ないものねだり→あるものさがし これは「観光」の考え方につながりますね

●空き家の活用に期待

◎ [2章-3] 既存の公共施設の地域化！空き家等の活用は望ましい（市の消防施設の移転に伴う既存建物の町内会活用を計っていただきたい）

◎ [3章] 空き家をカフェや地域の人への活用の場にする

<市民創発>

●市民が主役！！市民の多様な意見が取り入れられる

◎市民の多様な意見を反映して実現していくことは非常にいいと思います

◎ [1章] 市民創発のイメージに市民の声が原点ということ

◎ [1章] 人口動態の急激な変化をとらえ、2028年に目標を設定したこと。行政と市民が共にそれぞれの責任でまちづくりを進める視点

◎小さな市だけに一歩市民に寄り添った市のあり方があたたかい

◎ [1章] 市民自治、自分たちの課題は自分たちで解決。プロボノ、パラレルキャリア→市民が主役

●やりたいコトをフォローしてくれる

◎ [3章] やりたいコトをフォローしてくれるしくみ

●「市民創発」「寛容と互助」の言葉と理念良い

◎ [3章] 基本理念「市民創発」「寛容と互助」という言葉と理念

●市民創発のイメージがわからない

- ◆ [1章] 申し訳ございません。「市民創発」のイメージが全くわかりません

●どこからどこまでを創発とするか

- ◎市民創発→寛容で→どこまで寛容か？
- ◎移住組への地域の寛容まだうすい！
- ▲市民創発、どこまでどうやって創発と考えるのか

<難しい・概念的>

●全体的に難しい

- ▲全体的にムズかしい

●用語が難しい

- ▲使われている言葉が難しい。プレゼントークには入っているのに何故文字になっていないのか
- ・用語が多くて抽象度が高いような気がする

●施策の柱が見えない。言葉だけが走りすぎている

- ▲施策の内容も理解できるが、総花的！柱が見えない
- ▲ [1～3章] 基本的考え方の説明～あまりに概念的すぎます。言葉だけが走り過ぎています

<情報発信・普及啓発>

●市民の意識改革の場・時間・機会は？

- ▲ [1～3章] 「市民創発」の概念が浸透するまでは多くの時間が要すると思います
- ▲人々の意識改革も同時進行だと思いますが、市民が知る・学ぶ機会とサポート体制は？
- ▲希望のシナリオに実現するまでの具体的施策ができ上がった段階で市民に提示し意見交換の仕方
- ▲教育が最大のネックであり、ネックをどう解決するかという理解が不足していないか
- ◆ [1章] [3章] 市民創発によるコミュニティづくりの考え方をどう広げていくのか？
→少なくなっている地域コミュニティ

●情報発信はどうする？

- ▲ [3章] 情報発信方法はどのようにしていくのか (若者、家から出られない人への)

<これまでやってきたコトをどう取り入れる？>

●これまでの意見や提言が市側に取り入れられていない

- ▲まちづくり会は約30年くらい参加していますが、市民の意見はまちづくり会で提言して来ますが、

なかなか意見や提言が市側にはとりいれられていないのが問題だと思う

●これまでのシステムはきちんと進んでいるか？→地域包括ケアシステムとの関わりは？

◎このシナリオが完成するには行政改革が避けられないと思います。地域包括ケアシステムとの関わりをシナリオに具体的に示してほしい

▲これまでの地域包括ケアシステムは、予定どおり進んでいるのかはギモン

●これまでのしくみをどう活用するか

◆現在の人・モノ・金を投入して進めて来たしくみや活用する考えは、どのように組み込んでいくのか

●希望のシナリオは現状否定から始まるの？

◆希望のシナリオは現状否定から始まるのでしょうか？

<各世代に向けて>

●シニアパワーを大切に！！

▲現存の組織の改変ばかりが進んでいるようで、シニアパワーを大切にしてほしい

●ワークライフバランス子育てできるしくみ！！

▲ワークライフバランス（仕事と生活の調和・子ども（少子化）安心して子育てできるしくみ

●子育て世代の意見を取り入れてほしい

◎何となく方向性は見えてきたが…「子育て世代」の意見、シンポ etc を開催してほしい

<その他>

●集合住宅は人づきあいしたくない人も住んでいる

▲ [1章-2] 集合住宅が7割。人づきあいをしたくない為に集合住宅を選ぶ人もいるのではないのでしょうか？

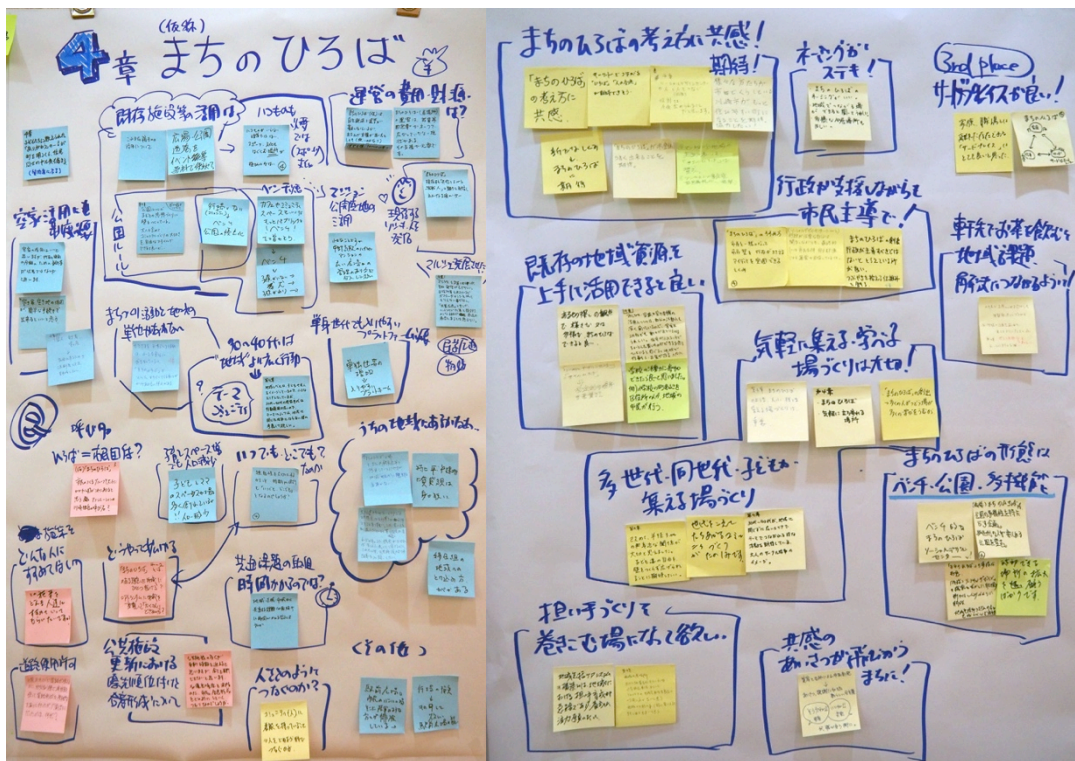
●県レベルの施策の整合性は

◆神奈川県レベルの施策の方向性との整合性はどうなっていますか

●行政×市民の協働の位置づけに？

◆行政と市民の協働はどこに位置づけられるのか？

第4章 | (仮称) まちのひろば



●「まちのひろば」の考え方に共感！期待！

- ◎「まちのひろば」の考え方に共感
- ◎キーワードでつながる「ひろば」「人の交流」が期待できそう
- ◎様々な方々が市で暮らしている。川崎市がもっと住みやすいまちになることを期待。協力したい！
- ◎新たなしくみ→「まちのひろば」に期待
- ◎「まちのひろば」が市全体にうまくできることを期待
- ◎マンションと地域の共生の為に「まちのひろば」は賛成。マンションの集居室設置義務化(新築)

●ネーミングがステキ！

- ◎「まちのひろば」のネーミングがいい。地域でつながる場ができると聞いて嬉しい。多様な人の居場所も欲しい

●行政が支援しながらも市民主導で！

- ◎「まちのひろば」の進め方、市民と一緒に行政が支える。アイデアを実現できるしくみ
- ◎行政の必要な部分は関与しながらも、最終的には市民主体、自主財源による運営を目指していること
- ◎「まちのひろば」の創出。行政が主導すべきではないととらえている所が良い。つぶやきを拾える

しくみを創る

<地域の場所>

●サードプレイスが良い！

- ◎家族、職場とは離れた存在である「サードプレイス」はとても良いと思った
- ◎「まちのひろば」：「家庭」⇔「仕事」⇔「サード」 サードはホットコーナー

●「まちのひろば」の形態はベンチ・公園・多機能

- ◎ベンチ的な「まちのひろば」、「ソーシャルデザインセンター」
- ◎「(仮称) まちのひろば」は公園の多様性をもたらす企画。多世代の人が楽しめる公園を望む。
- ◎「まちのひろば」の多様な形態。「(仮称) ソーシャルデザイン」の機能を生かした取組、新たなしくみづくりに期待。地域包括ケアシステムのもと地域レベルで活動
- ◎活動できる場所の拡大を願うばかりです

<期待する機能や活用方法>

●軒先でお茶を飲むと地域課題解決につながるように！

- ◎軒先でお茶を飲んでいるだけでも地域課題解決につながる
- ※地域の活動を集めて見えるようになると良い

●既存の地域資源を上手に活用できると良い

- ◎あるもの探しの観点で様々な又は多様な「まちのひろば」できると良い
- ◎マルシェ・空き家・空き店舗の活用については、自分の活動にも深く関わっているので、宮前区以外でも動きが出ているのは嬉しい。住宅が増える一方でちょっとした買いものができるお店は減っていると感じる。地域で仕事をし、お金が回る方向に行けばいい
- ◎「ソーシャルデザインセンター」「まちのひろば」→固定的な場所を要望する
・学校の活動に参加できたら良いと思いました。例) 小学校のまち歩きを区役所の人や地域の市民が行う

●気軽に集える、学べる場づくりは大切！

- ◎「まちのひろば」のような大小様々な集える場づくりは重要
- ◎「まちのひろば」気軽に立ち寄れる場所
- ◎「まちのひろば」の創出→多くの人が集う場が多く学びを生むから

●多世代・同世代・子どもが集える場づくり

- ◎改めて半径3mの身近な関係が大切と思えました。子どもたちの自由に壁をつくらず広げられることに期待したい

◎世代をこえて立ち上がるコミュニティづくりが楽しみです

◎30~40代が、地域に閉じずに広いエリアでテーマでつながれる様な活動を期待している。大人のサークル活動のイメージ

●担い手づくりを巻き込む場になってほしい

◎地域包括ケアシステムの構築には地域における担い手育成が急務であり、養成に注力願いたい

◎地域の居場所。まちづくりの基本的スケールは小学校区単位あるいはそれ以下の町内会・自治会単位という考え方が良いと思う。地域の担い手(特に若い人)を巻き込めるとよいと思う

●共感のあいさつが飛びかうまちに！

◎寛容と互助による市民創発⇔あいさつ、感謝に加えた新しい合言葉。そうだね(寛容)、いいね(共感)が飛び交うまちに

<既存のものを活用してほしい>

●既存施設等の活用

▲これまでのハコモノの活用について

▲広場、公園、道路をイベント等無料で使わせて

●空き家活用にも制度必要

▲空き家の活用はいいと思いますが、所有と使用の分離のための事例等が必要ではないかと思います

▲空き家、空き地の活用が簡単な手続きでできるといいと思う

▲個人、財産、資産→社会化する為の法制度改正に期待したい

●ハコモノも必要では(スポーツ、文化)

▲ハコモノがいない理由ではない。スポーツ、文化を育む場所が極端に少ない

●公園ルール

▲ボール遊びについて、公園ルールが子どもの思想づくりに壁をつくっている。大人も含めてコミュニティづくりの大切さを自由なスタイルでできると良いが…

●マンション公開空地の活用

▲小さなことですが、中野島駅のハイライズマンションの広い広場の管理のあり方に介入してほしい

●ベンチ必要

▲行き場(コミュニティ)がない→ベンチ、公園の優良化

▲カフェやコミュニティスペースもいいけどもっとパブリックな！ベンチ！を増やそう

▲ベンチ、子どもがいない、犬、子どもがわり

●現存する組織・人を発信

- ▲「まちのひろば」現存する「共感をよべる組織、人」の魅力を発信し、立ち上げる支援が第一

<運営・実施方法について>

●運営には費用・財源などの支援が必要

- ▲「まちのひろば（仮）」は自主財源で運営が基本となっているが、立ち上げ支援があったとしても（無いのかな？）継続は大変な努力がいる。介護保険のデイサービスも、給付がなければ運営できないように、運営支援もちょっとは必要なのでは？
- ▲「まちのひろば」（居場所）の運営は家賃等固定費がネックで広がっていかない現状がある。その支援が必要です

<設置場所、範囲について>

●まちづくり活動と地域の単位があわない

- ▲さまざまなまちづくり活動は小さな単位に収まっていない。「まちのひろば」とそうしたまちづくり活動とがかみ合わない怖れがある

●30～40代は“地域”より広く行動～テーマ型コミュニティも必要

- ▲地域レベルは、子どもや老人をイメージしているので、小さなエリアとなっているが、30代～40代の現役世代は行動範囲が広いので、テーマによっては地域に閉じた活動にならない様に考慮してほしい

●どうやって広げる？どの範囲に設置するか？

- ◆ある想定した地域に一つ設ける？アトランダムに地域を重複して「たくさん」できるのか？

●いつでもどこでも？なのか

- ◆独自性を大切にするからこそ、時期や場所も「いつでも、どこでも」となるのでしょうか？

<各世代に向けて>

●単身世代でも入りやすいプラットフォーム必要

- ▲単独世帯の増加→入りやすいプラットフォーム

●子育てスペース増でも人口減少

- ▲子どもとママのスペースや場、多く創れているが！！人口減少

<心配な点>

●共通課題の取組、時間かかるのでは？

▲地域区域市域に共通する課題への取組に時間がかかる恐れはないか

●うちの地域にあるかなあ…

▲まちのひろばの場をカフェや飲食店等と想定しているようですが、地域(町会内)に該当する店舗がない…

▲特に平屋・戸建エリアでは賃貸は肩身が狭い

▲大きな建物がないエリアでは、公共機関(区役所等)が利用できると有り難い。しかも若い人を取り込んだマルシェ等は物品販売が有れば NG。また、飲食が出せれば皆さんにゆっくりして頂けるのに、これも NG。公共施設の利用改善をお願いしたい

<関わる人や団体、今後の考え方>

●呼び名、ひろば=市民団体？

◆(仮)「まちのひろば」市民のつくるグループ(大小にかかわらず)がこれに当たると思う
アソシエーションの川崎独自の呼び名？

●施策をどんな人に進めてほしいか？

◆この施策をどんな人たちに進めていってもらいたいですか？

●人をどのようにつなぐのか？

◆コミュニティ(人)に着眼を持っていること→人をどのような形でつなぐのか

●公共施設更新における優先順位付けと合意形成について

◆公共施設の多くが更新時期を迎えると思いますが、全てを更新できないと思います。その優先順位を決めるのに、市民の合意形成をどのようにしていくつもりなのでしょうか

<その他>

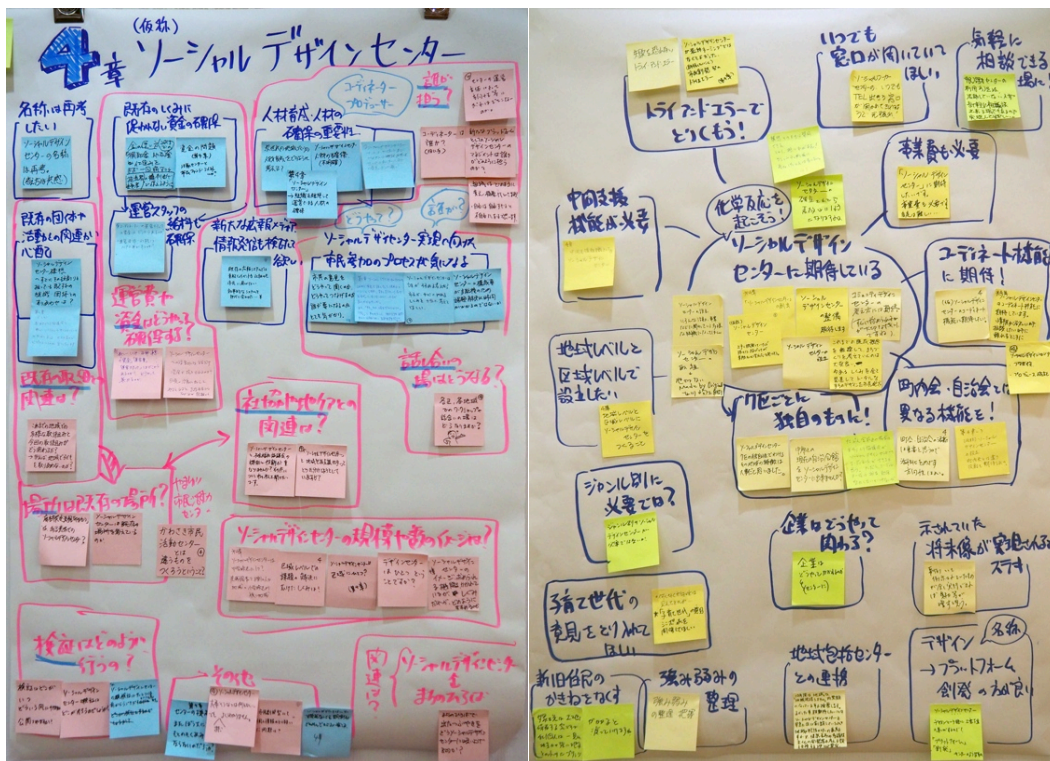
●駅前広場

▲駅前広場は市民のいこいの場。そこに陸軍のような方々が排除している→行き場の損失→もの申してほしい、駅前広場の取り戻し

●マルシェを発展させたい、民業圧迫

▲マルシェを発展させたいが、告知発信が難しい。区役所等公共スペースでポスターかチラシを扱ってもらえないことが多い。「民業圧迫」と言うが、ハンドメイドクラフトと競合するようなお店が周辺の商店にあるとは思えない

第4章 | (仮称) ソーシャルデザインセンター



- 化学変化を起こそう！「ソーシャルデザインセンター」に期待している (以下、類似意見は集約)
 - ◎「ソーシャルデザインセンター」の設立、創出、整備、期待します。どのようにでき上がるかが楽しみ。確立されたら素敵な川崎になりますね
 - ◎いろいろな活動、事業などに関わっている多様な組織になってほしい
 - ◎他ではない Made by original な川崎を目指す
 - ◎上手く機能していけば、ステキな化学反応を起こしそう
 - ◎コミュニティデザインセンターの考え方には期待 (すぐに始められるかが大切なポイントですね)
 - ◎これまでの既成概念を転換して、まちづくりを考えていくのは大変良い。今あるしゅみを全て見直してトータルなまちのデザインを市民発で！！
 - ◎構想そのものは賛同できる。しかし担い手が不足！コミュニティ形成に参加したい人は多くない
 - ◎事例として例示されていたものが全て実行できれば魅力等が増すと思う
- トライアンドエラーで取り組もう！
 - ◎失敗を恐れないトライ・アンド・エラー
 - ◎「ソーシャルデザインセンター」が最終ネーミングじゃなくて良かった。(期待したいこと) 市民創出型のトライ&エラー

<期待する機能や役割>

●気軽に相談できる場に！

◎市民活動センターの利用方法は活動していない人が気軽に相談できる場でもあるので実現してほしい

●いつでも窓口が開いてほしい

◎ソーシャルワーカーセンターのいつでも電話できる窓口が開かれてくれるようで頑張れ！

●町内会・自治会とは異なる機能を！

◎「（仮称）ソーシャルデザインセンター」の設立、町内会とは違う役割を期待したい

●中間支援機能が必要

◎中間支援組織としての「ソーシャルデザインセンター」

●コーディネート機能に期待！

◎「ソーシャルデザインセンター」のコーディネート機能に期待したい

◎「ソーシャルデザインセンター」のコーディネート機能に期待しています。情報が欲しい時、相談したい時に頼れるところに

◎「ソーシャルデザインセンター」の人と人（団体）をつなぐ役割は今後求められることだと思います

◎つなぎ役、プロデュース機能

●新たな広報メディア、情報発信も検討してほしい

▲既存の広報システムでは、素敵なイベントもしくみも市民には届かない。効果的なシステムを世代に合わせる

●7区ごとに独自のものに！

◎7区の独自性でわかるその地域の特徴は大事だと思いました

◎中原区の現在の自治会館を「ソーシャルデザインセンター」にできませんか？

・たぶん宮前区の場合はまちづくり協議会で「ソーシャルデザインセンター」のコーディネートができると思う。ただし、コーディネーター役は相当、勤勉、努力しないとイケないが

●地域レベルと区域レベルで設立したい

◎地域レベルと区域レベルに「ソーシャルデザインセンター」をつくること

●機能が多すぎても良くない

▲「ソーシャルデザインセンター」の機能がまた膨大になって、元の木阿弥にならないのだろうか？

<改善のための期待や要望>

●地域包括支援センターとの連携

◎10年後の地域は「地域包括システム」の円熟期になっていることと推察します。良かったこと、期待したいことは「ソーシャルデザインセンター」を早急に区に創設していただき、地域包括支援センターと連携する、また、健康長寿の多様性、文化の開発等を考える意見を交換する場として要望

●強み弱みの整理する必要がある

◎強み弱みの整理・把握

<名称について>

●（名称）デザイン→プラットフォーム・創発の方が良い

▲デザインという語に上意下達の臭いがするので「プラットフォーム」「創発」センターのようなもの

●名称は再考したい

▲「ソーシャルデザインセンター」の名称は再考（考え方は共感）

<既存の取組との関わり>

●既存の団体や活動との関連が心配

▲「ソーシャルデザインセンター」構想、既にその役割を担っている既存の組織・団体とのすり合わせは？

▲各まちづくり協議会と新しい「ソーシャルデザインセンター」のかかわり方は大切なのでどうなっていくのか気になります

●既存の取組との関連は？

◆これまでの地域での多様な取組と今回の取組がどう関わるか？→例えば地域で子どもを取り合わないのか？

●場所はやまゆり市民活動センターなどの既存の場所？

◆麻生市民交流館「やまゆり」はある意味での「ソーシャルデザインセンター」？

◆「ソーシャルデザインセンター」は既存の場所を考えているのか

◆かわさき市民活動センターとは違うものをつくろうということ？

●社協や地ケアとの関連は？

◆「ソーシャルデザインセンター」と社会福祉協議会の機能と役割が重なりませんか？その点について

て市の考えを聞きたいです

- ◆「ソーシャルデザインセンター」と地域包括支援センターとどう分けしようとしていますか？

<運営・資金確保>

●既存のしくみにとらわれない資金の確保

- ▲金の使い方、これまでの補助金・助成金のしくみをまず一度崩すこと。担当者・当事者の判断で使えるように
- ▲資金の問題。活動センターと市民ファンド以外には？

●運営スタッフの給料も確保

- ▲コーディネーターや運営スタッフの賃金はどこから出るのが？運営母体・形態は NPO 等があるのか？

●運営費や資金はどうやって確保する？

- ◆新しいしくみ・活動・事業の「資金」「運営費」「運営スタッフ」はどこから出るのが？どうやって集めるのか
- ◆「ソーシャルデザインセンター」への活動にはどれだけの資金が投入されるのか？日頃の活動に加えてやるとなると手持弁当ではなかなか困難かと

●事業費も必要

- ◎「ソーシャルデザインセンター」に期待したいです。事業費も必要です。自走は難しい…

<人材育成・確保>

●コーディネーター、プロデューサー等の人材育成・人材の確保の重要性

- ▲次世代の地域づくりの人材育成をどのように考える？
- ▲人材の確保（不明確）
- ▲組織を継続して運営できる人材の確保
- ▲「ソーシャルデザインセンター」でのコーディネート及びプロデュース機能を持ったコーディネーター人材の育成が必要！
- ◆コーディネーターは誰か？（担い手）
- ◆センターの運営主体によって方向性等にぶれは出てこないのか
- ◆新たなプラットフォームとしての「ソーシャルデザインセンター」のマネジメントは誰がどのように担うのか？
- ◆組織はどのように変え、構築していきますか？自由は自由すぎると不自由になると思います

●どうやって？誰が？「ソーシャルデザインセンター」に向けた市民参加のプロセスが気になる

る

- ▲市民の意見をどうやって聞くのか。どうやってつなげるのか。誰が要になるのか。とても気がかり
- ▲これから市民と話し合って決めるとのことですが、話し合うという名の「丸投げ」にならないようにした方が良いのではないかと。また、「市民」とは誰を指すのでしょうか。「市民」=声の大きい人、話が上手な??などに偏らない、多様な声を聞いてほしい
- ▲「ソーシャルデザインセンター」は誰が進める考えか？市民が中心にやれるしくみを十分に考えてほしい
- ▲「ソーシャルデザインセンター」の構成員が多職種のため、課題解決に時間がかかるのではないかと

●企業はどうやって関わる？

- ◆（センターに）企業はどうやって関わるのか

<質問>

●「ソーシャルデザインセンター」の規模や数のイメージは？

- ◆「ソーシャルデザインセンター」は中学校区に1つ？意識調査で8割の人が地域＝小学校区より狭い地域
- ◆区域レベルでの課題の解決に向けたしくみは？
- ◆「ソーシャルデザインセンター」は区域に一つ？
- ◆「ソーシャルデザインセンター」は一つということですか？
- ◆「ソーシャルデザインセンター」のイメージ、求められる機能は書かれているが、しくみ、誰がどのように進めるのか

●検証はどのように行うの？

- ◆検証はどこが、いつ、どういう風にやりますか？公開されますか？
- ◆「ソーシャルデザインセンター」の検証はどこで行うのでしょうか？
- ▲「ソーシャルデザインセンター」の検証はきつとつくる前から動き出すのがいいと思います

●「ソーシャルデザインセンター」と「まちのひろば」の関連は？

- ◆まちのひろばで出たつぶやきをどう「ソーシャルデザインセンター」に吸い上げるのか？

●話し合いの場はどうなる？

- ◆各区、各地域でのワークショップや話し合いの場はどうなりますか？

<その他>

●その他

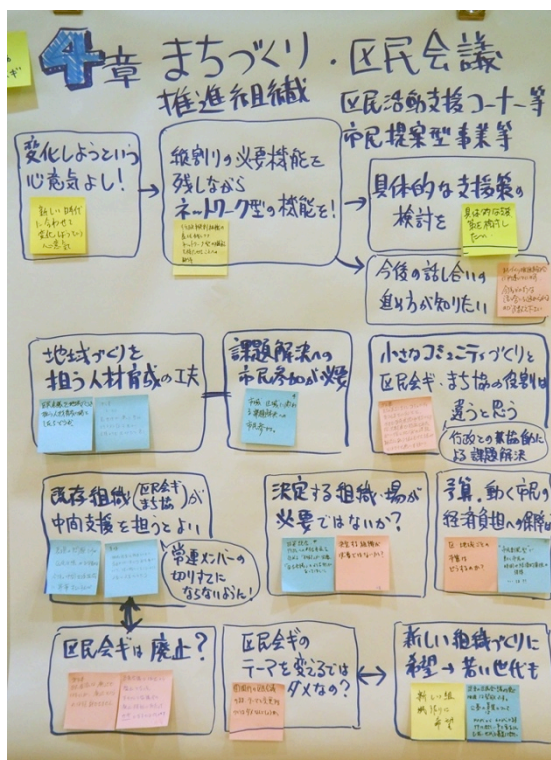
- ◆大事そうなのは何となく…。でも、まだよく分かりません

◆市民創発型にて個人情報の取り扱いに問題は？

●新旧住民の垣根をなくす

- ・嫁ぎ先は土地を保有する家ですが、私個人は一見さん、地主力や強い地域との小川にブリッジがかかると渡っていただけますね

第4章 | 区民会議、まちづくり推進組織、区民活動支援コーナー等・市民提案型事業等



●変化しようという心意気よし！

- ◎新しい時代に合わせて変化しようという心意気

●縦割りの必要機能を残しながらネットワーク型の機能を！

- ◎行政縦割組織の良さも残しつつ、ネットワーク型の機能を持たせることへの期待

●具体的な支援策の検討を

- ◎具体的な支援策を検討したい

●今後の話し合いの進め方が知りたい

- ◆まちづくり推進委員会に所属しています。今後どのような話し合いを進められるのかお教え下さい

●新しい組織づくりに希望→若い世代も

◎新しい組織づくりに希望

▲従来の区民会議の廃止は賛成です。公募の募集について 40 代から 60 代に移行してほしいことと
学生さんのような若い世代も募集してほしい

●地域づくりを担う人材育成の工夫

▲区民会議を、地域づくりを担う人材育成の場としたらどうか
▲若い世代が楽しく参加できるような工夫が、支援よりも大切だと思う

●課題解決への市民参加が必要

▲市域・区域に関わる課題解決への市民参加

<区民会議制度の廃止について>

●区民会議は廃止？

◆区民会議は廃止ではないか。廃止というのは理解できません
◆区民会議は休止から廃止となった。まちづくり協議会の廃止検討に当たってカギとなるのは何か？

●区民会議のテーマを変えるではダメなの？

◆現行の区民会議のまま、テーマを変更するのはダメなのでしょうか

●小さなコミュニティづくりと区民会議・まち協の役割は違うと思う

→行政との協働による課題解決

◆まちのあちこちにコミュニティをつくるということと、今まで区民会議やまちづくり推進委員会で
行政と市民と一緒に地域の課題を解決に取り組んだしくみとは別と思いますが？

●決定する組織が必要ではないか？

▲政策統合、行政への市民参画を進める「機能」が必要。「区民会議」のような形があってほしい
◆決定する組織が必要ではないか？

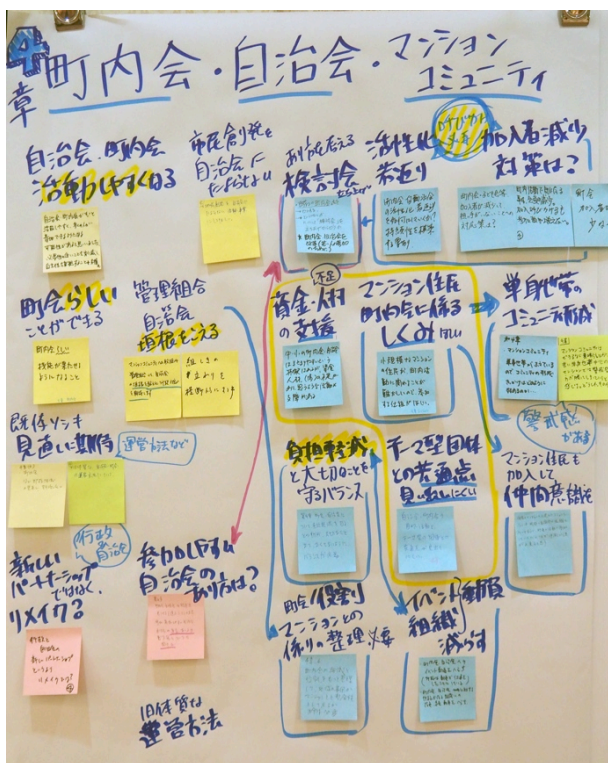
●常連メンバーが切り捨てにならないように、既存組織（区民会議・まち協）が中間支援を担
うとよい

▲表現の問題ですが、区民会議やまち協は今度の中間支援組織に昇華すれば
▲既存組織を推進してきた常連メンバーをどう再活用していくか、使い捨てにならないような方策が
必要だと思う

●予算、動く市民の経済負担への補償は？

◆区・地域ごとの予算はどうするのか？
▲“市民創発型”で動く市民の時間や経済的負担の補償…は？！

第4章 | 町内会・自治会、マンションコミュニティ



●町内会・自治会が活動しやすくなる

- ◎町内会・自治会がもっと活動しやすく、多くの人に参加しやすくなる可能性があると思いました
必要性の低いことを削減し自主性を重視する+支援も
- ◎町内会・自治会の活動は重要と思うので活性化をめざす方向性は良い

●町内会・自治会らしいことができる

- ◎町内会らしい機能が果たせるようになること

●管理組合と町内会・自治会の垣根を越える

- ◎マンションコミュニティへの取組 管理組合 vs 自治会の垣根を越えた行政対応を期待します
- ◎組織の縦割りを横断的にすること

●既存組織見直しに期待

- ◎町内会など既存組織の見直しに期待したい
・旧体質な町内会・自治会の運営方法について

●新しいパートナーシップではなくリメイク?

- ◆行政と自治会の新しいパートナーシップというよりリメイクでは?

●参加しやすい町内会・自治会のあり方を考えることが必要

▲既存の町内会等を「どうする」「どうしたいか」について「検討会」を立ち上げたらどうか

▲町内会・自治会を改革（若い人の参加のために）

◆町内会・自治会は役員を見つける（選ぶ）ことが大変。参加参画しやすい町内会・自治会の運営、あり方をどう考えているか聞きたい

●町内会・自治会の活性化・若返りのために呼びかけが必要、加入者減少対策は？

▲町内会・自治会の活性化・若返りを如何していくか？持続性を構築していく必要あり

▲町内会・子ども会など加入者が減少して担い手がいないことへの対策は？

▲町内活動で気になることは会員の減少。加入を呼びかけるも参加数は増えない

▲町内会加入者の少なさ

●マンション住民が町内会・自治会に関わるしくみが欲しい

▲小規模なマンションの住民が町内活動に関わるのが難しいので、参加するしくみが欲しい

●マンション住民も町内会・自治会に加入して仲間意識を持つことが大切

▲住民とマンションの人たちとのコミュニケーションは町内会・自治会の組織に入ってもらい、町内会の活動に参加していただくことで仲間意識ができると思う

●町内会の役割 マンションとの関わりの整理が必要

▲町内会の組織と役割をもっと整理して地域の集団がマンションとの整合性としてやるか検討が必要

●単身世帯のコミュニティ形成、警戒感の緩和が必要

▲単身世帯が増えているので、コミュニティ形成のきっかけはどのように進めるのか

・マンションコミュニティはできるなら素晴らしいが、若い単身世帯中心のマンションでは警戒感の方が勝ってしまっていると感じる。どうしたものか…

●資金不足・人材の支援が必要

▲中・小の町内会・自治会はまとまりやすいという特徴はあるが、資金、人材、（場）の不足があり、思うような活動に支障がある

●市民創発を町内会・自治会に頼らないでほしい

▲地域創発を自治会に頼らない活動・事業にしてほしい

●負担軽減と大切なことを守るバランスが必要

▲負担軽減を図るとのことだが、大切なことまでなくさないようにバランスが必要

●負担軽減のためにイベント・組織の動員減らしては

▲町内会・自治会へのイベント動員を減らす（行政は動員で仕事をしたことにしている）

▲町内会・自治会に対する行政が作る組織への役員・委員の動員を減らす

●テーマ型団体との町内会・自治会の共通点を見出しにくい

▲町内会・自治会の目的や活動とテーマ型の団体との共通点が見出しにくい

第5～6章 | 行政のあり方、これからの検討課題等、今後の進め方、その他



＜行政スタイルや組織のあり方＞

●行政内の横の連携（横串）に期待

- ◎ [5章] これまで何か活動をしたと進めていると部や課など担当が分かれていて進まないことが多かった。これらは横串に期待したいです
- ◎ 行政のあり方としての行政施策の総合をぜひ進めてほしいです

●庁内連携の現状は？→今後の進捗はどのように測るのか？

- ◆ 市役所内における連携状況はどうなっているか
- ◆ 新たな枠組みやしくみに作り替えるには行政としての覚悟が必要だと思うが、一部署だけの思いでは実現しない。現在の今後の進捗は？

<職員の意識改革や人材育成>

●行政職員の意識改革に期待

- ◎市の職員さん一人ひとりがそういう意識を持つことを期待したいです。しくみより気持ちかと…
- ◎行政主導の協働スタイルの見直し
- ◎本当に行政が変わるのか?期待したい
- ◎個人の考えと市の考えと大同小異で方向性は確認できたので、これからの具現化に期待します
- ◎ [5章] “市民創発” 良い言葉と思うが行政の今のしくみではかなり大変。行政職員の意識改革を期待します
 - ・ [5章] 市の人材育成、区に密着(生活を変にする)した職員。地域のことを自分ごととして考えられる職員の育成が必要と考える

●職員の異動がある中で、やる気をどのように引き出すのか?

- ◆ [5章] 職員のやる気をどうやって引き出すのか?2~3年で異動する現場状況では期待できない

●市職員へのシナリオ周知は?

- ◆ [5章] 市職員の学習やシナリオ達成に向けた具体チャートあれば知りたい
- ▲ [5章] 市職員へのシナリオ周知(認識一致)が間に合うのか?
→これがないと市民の多様な声に対応できないと思うので
- ▲ [5章] 1つの活動には様々で多様な側面があります。対応できる行政の職員の教育・共育はどう考えているのか
- ▲ [5章] コミュニティ施策の基本的考え方について、行政の他部署や教育委員会は理解しているのか?→少子高齢化が問題なので、子どもを産み育てたい、子育てしやすいまちにする必要がある

●行政職員が現場を知ることが大切

- ▲ [5章] 市職員の意識改革→市職員が現場に出向いて現場を知ることが必要⇒プロとしての職員へ
- ▲市民活動のハブとなる(なるべき)学校や子ども文化センターの職員がこういう場に来ないこと
 - スタートアップ時等の無理解?
 - プロジェクト進行上にて逆に障害となる?
 - コーディネーター/プロデューサーとなれる?
 - そもそも業務上その余裕がない?

●行政の主体は誰か?区と市の役割分担は?

- ▲区ごとと市全体の関係性が今ひとつ分からない。市への反映が弱い
- ◆ [6章] 市行政でのこの議題をずっと旗振りするのは?
- ◆ コミュニティ施策の考え方を広げていけるか?どう見せていけるか?今後進める人が見えていますか?行政職員がするんですか?

- ◆区ごと、まちごとの地域づくりを推進するにあたり、区役所の役割も大きいかと。市役所業務の移行は検討されていますか？

<市民との協働>

●市民の声を把握することが大切

▲市民の声を聞いてくれる窓口があると良いな

▲行政も変わる。提供から“支援”へ→市民も変わる必要がある。要求から“提供”へ

◎（市民意識を持っていない）住民（こちらの方が大多数です）。従来型教育の残債への配慮をどうするか。単にご機嫌取りではなく、だましでなく

●これまでの市民活動を活かして、さらに市民が活躍できる川崎に！

・非営利で長年にわたり活動している市民の意見や実践を把握して活躍できる川崎市になってほしい

●市民と行政の協働、それぞれの役割が大切

・プロとしての行政職員が力を発揮できることも大事。協働にはそれぞれの役割も大事だと考えます

◆ [6章] 今後、市民と行政で進める「トライ&エラー」の「市民」は誰？

●住民・地域は何をすれば良い？

◆で、住民は、地域は何をすれば良いのでしょうか？

●担い手の発掘と参加しやすいしくみ

◎担い手発掘・育成

▲ [5章] 地域活動に30～40代の現役世代の参加が必要。市民参加の活動は、休日、平日夜間を中心とする必要があり、職員も対応しやすい勤務体系を作る必要がある

▲助けてほしい人とちょっと人助けをしたい人を繋ぐシステムを！

●市民への広報を分かりやすく

▲市民への広報を分かりやすく行ってほしい

●まちづくりの情報公開を広くしてほしい

・この理想の姿とは反対に、登戸、向ヶ丘遊園地区では区画整理が長々と続いて住民がどういうまちの姿になるか分からず意見も言えず、こんな状況では効果的なまちづくりを進めにくい！情報公開を広くしてほしい！

<これからの検討課題等>

●空き家利用進めてほしい

▲空き家利用について早急に進めてほしい

●地域データの活用方法

- ◆地域データの把握はこれからどのようにしていくのか？今までのデータを使うのか？
- ◆アンケート結果では地域活動に関心がない？（不参加？）と答えた人の割合が大変高かった。今後どのようにこれらの考え方を周知して理解を保っていかうと考えていらっしゃるのでしょうか？
- ・セーフコミュニティ SDGs、ESD など、より広い観点の指標などをモノサシにして評価していく
しくみがあった方がよい

<今後の進め方>

●スピード感が大事

- ◎スピード感はこの時代の時代、大切かと思えます。議論は実践の後。スモールスタートによる事業の実践が多数起こることを期待します
- ▲ [6章] スピード感ってどのくらい？テーマが少し大きすぎてずいぶん先の未来に思えてしまう

●「トライ&エラー」 試行錯誤しながら進めてほしい

- ◎ [6章] “失敗は許されない”ではなくて、試行錯誤して生み出す動きの方が妙案が生まれる気がします
- ・「トライ&エラー」という言葉が市職員から出てくることは驚き！
- ・ [5章] シナリオにはアドリブがつきもの。ボツ案もおもしろいぞ

●総花的ではなくリアルな地域で進めては？

- ▲リアルな地域をベースに話を進めてみては如何ですか？（総論的な話ばかりではなく）
- ・総花的・概念的すぎると思えます（まだ）
→構造化等を行い、方針と個別アクションがつながるような“練り”を期待します

<その他の意見・質問>

●中間支援組織の担当は？

- ▲中間支援組織の人材育成？既存の団体が担当するのか
- ◆実は、中間支援組織を頼ればある程度の活動ができるのかな？

●小学校との関わり薄い

- ▲小学校との関わりについての内容が薄く感じた

●防災に強いまちづくりを目指す →防災の視点が足りないのでは？

- ◆防災の視点が見えないのはなぜ？
- ◆ [5章] 防災の視点での農地活用策（今ある制度）あれば知りたい
- ・どこの都市にもマネできない「市民創発」のまちづくり、災害に強いまちを目指しましょう！

●多文化・外国人との共生 →トラブルをどう減らす？

▲たくさんの外国籍の方が住んでいる。これから増えることでトラブルが生じないようにきちんと正しい情報を伝えていきたい

◆多文化の住民がいる川崎市ですがトラブルを減らすためにどう考えているか聞きたい

●柔軟に企業を活用してほしい

▲柔軟な企業の活用

●区役所などの移転はもっと慎重に進めてほしい

・宮前区役所、市民館、図書館の鷺沼移転はもっと慎重に。区民を分断させないで

●介護施設・サービスをもっと充実してほしい

▲「もみじ家」のような施設をつくってください

▲訪問看護師さんを増やしてください！3Hステイは必要です

▲子どもの介護にもケアマネージャーが必要です！

▲介護などで外に出ていきづらい人をいかに1人にしないか

●高齢者のためにバスを通してほしい

・高齢者が増す中、区役所に行く交通が不便でタクシーの往復となってしまいますので、もっと区全体にバスを走らせてもらいたい

●道にベンチが少ない

▲道にベンチが少ない

●広場イベントは許可が必要か？

◆広場でイベントごとをする時は行政の許可が必要ですか？

●道路使用許可

◆道遊びで道路が使えるのに、防災訓練で消防車を使って道路開放の使用許可を取りに行ったが、門前払いだったのは、なぜ？

●石けんを活用して

◆石けん運動をしています。環境の課題があるから私の活動する場（コミュニティ）があるのですが…川崎市は公共の場では石けんを使うことを方針にしていますか？石けん生活をしていますか？シャンプーは石けんですか？